**日本時間7月15日(火)19:00まで非公開**

**QSベスト学生都市ランキング2026**

**東京、再び世界第2位のベスト学生都市に輝く**

2025年7月15日 - 高等教育アナリストであるQSクアクアレリ・シモンズが本日発表した[QSベスト学生都市ランキング](https://www.topuniversities.com/city-rankings/)\*の第13回版で、**東京が世界第2位**の地位を維持した。  
  
今年、**ソウル**は**ロンドン**を抜いて、**世界トップの留学先**となり、6年間続いたロンドンの1位に終止符を打った。東京はこれで3年連続で第2位を維持している。

\*本年度の結果についてのリンクは、公開禁止措置が解除され次第、更新予定である。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **QSベスト学生都市ランキング2026：トップ10** | | | |
| **2026年順位** | **2025年順位** |  | |
| 1 | 3 | ソウル | 韓国 |
| 2 | 2 | 東京 | 日本 |
| 3 | 1 | ロンドン | イギリス |
| 4 | 4 | ミュンヘン | ドイツ |
| 5 | 5 | メルボルン | オーストラリア |
| 6 | 6 | シドニー | オーストラリア |
| =7 | 9 | ベルリン | ドイツ |
| =7 | 7 | パリ | フランス |
| 9 | 8 | チューリッヒ | スイス |
| 10 | 14 | ウィーン | オーストリア |

東京は、*企業活動（Employer Activity）*指標で第1位、*世界大学ランキング（World University Rankings）*指標で第4位、*魅力度（Desirability）*指標で第6位となり、総合で第2位を獲得した。  
  
QSシニア・バイス・プレジデントのベン・ソーター（Ben Sowter）は以下のように述べた。  
「トップ200に入る大学を3校擁する東京は、卓越した学術の拠点として、革新的な思想家、卓越した学者、ユニークな人材を引きつけ続けている。」  
  
「また、QS雇用者調査では、東京の大学が輩出する卒業生の質が雇用者から高く評価され続けている。2024年の日本の若年失業率が3.9%で、世界でも最良の水準の一つであることも、この評価をさらに裏付けている。」  
  
「世界の多くの主要都市と同様に、東京の学生にとっては、経済的負担が依然として課題である。日本の首都が、メルボルン、シドニー、グラスゴー、ダブリン\*などの学生都市に比べて本当に劣っているのは、留学生数、都市人口に占める学生の割合、寛容性と包括性を測定する学生の多様性指標である。しかし、2033年までに40万人の留学生を誘致するという国の野心により、この状況は将来変わる可能性がある。」

\*2026年の「学生の多様性」指標上位5都市は以下の通り：メルボルン（オーストラリア）、シドニー（オーストラリア）、グラスゴー（イギリス）、ダブリン（アイルランド）、エディンバラ（イギリス）。

**東京: 主な事実**

* 東京は、昨年に引き続き「*企業活動（Employer Activity）*」指標で世界一の都市となり、京都は 16 位となった。
* 「*世界大学ランキング（World University Rankings）*」指標では、東京は昨年から順位を1つ下げて4位となった。2026年の[QS世界大学ランキング](https://www.topuniversities.com/world-university-rankings)では、東京の大学12校がランクインし、8校が順位を下げ、残りの4校は昨年と同じ順位を維持した。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **QS世界大学ランキング2026：世界トップ250に入った東京の大学** | | |
| **2026年順位** | **2025年順位** | **大学名** |
| **=36** | =32 | 東京大学 |
| **85** | =84 | 東京工業大学 |
| **196** | =181 | 早稲田大学 |
| **=215** | 188 | 慶應義塾大学 |

* + QSが実施した留学希望者を対象とした調査の回答を、公害や治安、TripAdvisor、汚職などの幅広いデータセットとともに評価した「*魅力度（Desirability）*」指標では、東京は世界第6位となり、2025年の第1位から順位を下げた。
  + 都市の学生数の多様性と規模を反映する「*学生の多様性（Student Mix）*」指標では、日本の都市はあまり芳しくない結果となった。東京は70位（昨年より9位上昇）、京都は73位、名古屋は124位、大阪は125位となった。2023年の教育未来創造会議では、[2033年までに40万人の留学生を受け入れること](https://www.kantei.go.jp/jp/101_kishida/actions/202303/17kyouikumirai.html)、さらに10年以内に50万人の日本人学生を海外に送り出すことを発表した。
  + 「*学生の声（Student Voice）*」指標では、東京は25位（昨年の22位から下降）、京都は31位、大阪は119位、名古屋は148位となった。
  + 学生にとって、留学先や住まいを選ぶ際に最も重要視されるのは「*経済的負担（Affordability）*」である。この指標では、東京は58位で、日本の4都市の中で最下位だが、昨年の85位から改善している。京都は52位、大阪は日本で最も優れた学生都市として世界第27位、名古屋は世界第35位となっている。

**日本の概要**

QSは日本の4都市をランク付けしている。これまでのランキングでは、京都、大阪、神戸が1つの地域として扱われていたが、2026年からは京都と大阪が独立してランク付けされることとなった。結果、京都は18位、大阪は62位となった。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **日本の都市ランキング** | | |
| **2026年順位** | **2025年順位** | **都市名** |
| 2 | 2 | 東京 |
| =18 |  | 京都 |
| =62 |  | 大阪 |
| =111 | 108 | 名古屋 |

**ランキング方法**

QSベスト学生都市ランキングは、人口25万人以上で、QS世界大学ランキングに2校以上ランクインしている都市を対象とする。ランキングは、入学希望者と元留学生の視点を反映する強力なレンズであり、10万件のアンケート回答が「*魅力度（Desirability）*」（入学希望者の視点）と「*学生の声（Student Voice）*」（卒業生の視点）の評価に寄与している。

方法論に関する詳細はこちら：<https://www.topuniversities.com/best-student-cities/methodology>。

全ランキングは、[www.TopUniversities.com](http://www.TopUniversities.com)（日本時間7月15日19:00）よりご覧いただけます。

- 終了-

**QSアナリストへのインタビューは下記までご連絡ください：**

シモーナ・ビッツォゼロ（Simona Bizzozero ）

コミュニケーション・ディレクター

QSクアクアレリ・シモンズ

[simona@qs.com](mailto:simona@qs.com)

ヴィゴ・ステイシー（Viggo Stacey）

PRスペシャリスト

QSクアクアレリ・シモンズ

[viggo.stacey@qs.com](mailto:viggo.stacey@qs.com)

**編集者の方へ**

**QSクアクアレリ・シモンズ（QS Quacquarelli Symonds）**

QSクアクアレリ・シモンズは、世界の高等教育セクターに対し、サービス、分析、見識を提供する世界有数の企業である。その使命は、教育成果、国際的な流動性、キャリア開発を通じて、世界のあらゆる場所で意欲ある人々が潜在能力を発揮できるよう支援することである。

2004年に始まったQS世界大学ランキングのポートフォリオは、大学実績に関する比較データとして世界で最も人気のある情報源である。

QSの主要ウェブサイトである[www.TopUniversities.com](http://www.TopUniversities.com)（ランキングのホームページ）は、2023年には1億7,000万回以上閲覧され、QSに関連する、またはQSに言及した記事は、世界中のメディアで12万4,000件以上掲載された。